



説教	新しい人	……	山口 浩	……	1
教会の課題	将来に開かれた中会をめざして	……	有賀 文彦	……	2
	-近畿中会の課題と展望-	……	片野安久利	……	3
旧約聖書に聴く	「コレヘト『わたしは見た』」	……	多田 滉	……	4
信仰問答を学ぶ	「教会を活かす聖霊」(3)	……	大倉 薫	……	5
	-聖霊がはぐくむ伝統、自由-	……	竹田 悦子	……	6
教会、この地とともに	⑧ 聖園教会	……	吉村 誠	……	6
	原生林を開拓して	……	田部 朋彦	……	7
み言葉に照らされて	奏楽者と呼ばれて	……	鈴木美津子	……	7
さんびかに生かされて	Abide with Me	……	植 省三郎	……	8
	-主よ、ともに宿りませ-	……	教会ニュース	……	8
こいのにあ	第6回日韓教会青少年交流ツアー	……		……	
	「ともに生きる未来を見つめ」	……		……	
	無牧師の教会に遣わされて	……		……	
田中 豁先生 追悼文	多くの証人に囲まれて	……		……	
	教会ニュース	……		……	

## 新しい人

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。(ヨハネによる福音書20章19-20節)

やまぐち ひろし  
山 口 浩

「主を見て喜ぶ」-このことこそ、信仰の出来事である。この喜びは、彼らの自我（自意識）によって作られた喜びではない。-復活の主を見たら喜ぶことが信仰的であり、信心深いことであり、私は信仰的であり、信心深い人間になろうとして喜んだというわけではない。また、復活の主を見たら喜ぶべしという戒めに服従して、喜んだというものでもない。(そもそも、そのようなものが<喜び>といえるだろうか。)

弟子たちは、復活の主が目の前に現われたので、思わず(すなわち、彼らの自我《自意識》の決心や決断ぬきに)喜んだのである。この<喜び>は、全く、弟子たちの自我(自意識)の協力なしに、復活のキリストの現臨が、彼らの心に(まさに無から有を呼び出し、闇の中に光を出現させたように)引き起こした奇跡-創造者なる神の一方的な恵みの御業によるのである。この復活の主を喜ぶ人こそ、創造者なる神の<霊>、その内実である神の<愛>によって新たに創造された「新しい人」であり、「信仰者」なのである。

それに対して、「古い人」とは、自分の自我(自意識)の意思・決心・その実行によって、信仰者(信心深い者)になって、神に認められ、神にほめていただき、そのようにして救われようとする人間である。(そもそも、人間の自我《自意識》は、人間が罪に墮ち

た時に現われた罪人の主体なのである(創世記3章7節参照)。

弟子たちは、イエスにつき従うその歩みの中で、完膚なきまでに、そのような「古い人間」の在り方に挫折したのである。(彼らは、みな、イエスを見捨てて逃げ去ったのである。)彼らは、彼らがより頼んでいた自分という人間に完全に絶望し、虚しくなっていて、ただ暗闇の中に佇むこと以外何もできなくなっていたのである。-そこに、復活の主が現れたのである。そして、「シャローム:平安あれ」と言われた。それは、「あなたがたのすべての罪はゆるされている」ということである。(イエス・キリストの十字架の死によって、彼らのすべての罪は、永遠に償われたのである。)人間のすべての罪を無力化し、死を消滅させて、「シャローム」を宣言された復活の主を見て、弟子たちは「喜んだ」のである。この「喜び」の中を生きる人間、それが、信仰者であり、キリスト者である。

それ故に、私たちは、くり返し、くり返し、主の復活された日曜日に、復活の主に出会うために、また、復活の主の「シャローム」の宣言を聞くために、聖餐の「パンとぶどう酒」を囲み、復活の主を証言する「聖書」の御言葉に聞く必要があるのである。

(豊中中央教会牧師)